

018 健康経営 取り組み事例

企業
プロフィール

LAWSON 株式会社 ローソン

業種 27 小売業
従業員数 4,454名(2022年度末)

01 目的

グループ理念「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」に基づき、企業スローガンである「マチのほっとステーション」の実現を目指しています。お客様の身近なコンビニエンスストアだからこそできる、健康で長寿な暮らしをサポートすることにより、「近くにいつものローソンがあるから安心」と言っていたりするような存在でありたいと考えています。そのためには、まず従業員が健康、加盟店のオーナーさん・クルーさんが健康であることが大切であり、ローソンで働くみんなの健康維持向上に努めています。

02 課題・目標

健康経営で解決したい経営上の課題

	課題 ①従業員のパフォーマンス向上
健康経営で解決したい経営上の課題	グループ理念の実現には従業員のwell-being(心身ともに健康で、明るく楽しく元気に働きがいをもって働くことができる状態)が不可欠。その実現が従業員および組織のパフォーマンス向上につながると思っている。
健康経営の実施により期待する効果	戦略マップの最終的な目標指標である健診結果やストレスチェック結果を改善する取組が必要である。健診においては、健康診断の早期受診完了、通院・治療管理の徹底を進めることで有所見者・ハイリスク者比率の低減につなげる。メンタル面では各部署の問題点の抽出・改善を進めることでストレススコアの低減、従業員の満足度の改善につながることを期待する。

自社従業員(組織)の課題と目標

重点課題1 ⑭メンタルヘルス不調等のストレス関連疾患の発生予防・早期発見・対応に関する課題

課題内容	ストレスチェックにおける全社の平均スコアは改善し、前年高ストレスに該当した部署の内、半数以上の部署はスコアが正常化した。一方新たに新規で高ストレス部署に該当したため、全部署における高ストレス部署の比率は微増。スコアと管理職のサポート値に相関がある点と管理職のラインケアやマネジメントのスキル不足から、管理職のスキル醸成を課題としている。			
目標	高ストレス者比率			
		数値	単位	年度
	取組前実績値	15.4	%	2022年度
	現在の実績値	12.6	%	2023年度
	目標値	12.0	%	2025年度

重点課題2 ⑬生活習慣病等の疾病リスクを持つ従業員への重症化予防の課題

課題内容	従来より、健診結果から自社基準においてハイリスク者を抽出し、治療アクションをサポートしている。サポートを実施したハイリスク者については改善が進んでいるが、毎年新規のハイリスク者も発生しており、ハイリスクの予備群に該当する従業員に対する予防アプローチの強化が課題となっている。			
目標	肥満 適正範囲者比率 (BMI25未満(BMI18.5未満の者も含む)かつ腹囲85cm(男性)・90cm(女性)未満)			
		数値	単位	年度
	取組前実績値	男 46.8 / 女 75.4	%	2022年度
	現在の実績値	男 47.3 / 女 75.2	%	2023年度
	目標値	男 52.0 / 女 79.0	%	2025年度

04 健康経営の成果

経営上の課題に対する健康経営の成果

- ・従業員の健康リテラシー向上:健康診断(一次健診・二次健診)の受診完了スピードの早期化
- ・健康施策期間中の体重減少者比率の一定化(25%)
- ・健康診断問診回答結果の向上

03 施策・実績

健康経営の取り組み

施策内容(重点課題1)

管理職に対するラインケア研修の実施
ストレスチェック結果の各部署へのフィードバック

具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	ストレスチェック
提供元社名	SOMPOヘルスサポート株式会社
内容	ストレスチェックの案内・実施・受診促進・結果送付・組織別フィードバックの実施
導入時期	2008年
選択理由	●価格 ●効果
評価(定量・定性)	●受診率90%以上

施策内容(重点課題2)

健診事後措置対応
従業員健康施策の実施

具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	すこやかサポート すこやかサポートパーソナル
提供元社名	株式会社インテージテクノスフィア
内容	従業員の健康に関わる情報の管理
導入時期	2018年
選択理由	●機能・性能
評価(定量・定性)	●健診受診率100% ●健診委託先からの紙結果とシステムで確認できる結果の判定を一致させた形で運用ができる。 ※これにより、従業員への事後措置アプローチの際、混乱を招かず対応できるメリットがある。

具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	カロママプラス
提供元社名	株式会社リンクアンドコミュニケーション
内容	AI健康アプリ
導入時期	2017年
選択理由	●価格 ●効果 ●機能・性能 ●サービス・製品の可能性
評価(定量・定性)	●行動変容した従業員の増加 1回30分以上の軽く汗をかく運動の週2回以上の実施 22.8%→23.3%に向上

データ活用事例

事例名	健康管理システムを活用した情報の利活用
内容	健康増進施策参加者や時間外労働者、産業医面談者と健康管理情報との関係についての分析等に活用。
利用データ	健康診断、問診、ライフログ(歩数、食事、体重、睡眠)、ストレスチェック
利用者(ユースケース類型)	産業保健スタッフ(ユースケース1)、健康推進室スタッフ(ユースケース2)

取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	若年層や無関心層のリテラシーや参画意欲向上への仕掛けに関しては毎回様々な工夫が必要となっている。
今後取り組みたい施策の課題	—